

天神橋筋商店街での和歌教室

坂本美樹¹

関西大学リサーチ・アトリエ企画 和歌を楽しむ特別授業開催!!

はじめての和歌入門
和歌に隠された秘密に迫る

【開催日時】14:00～(約60分/回) 定員:10名/受講料:無料
2017年2月20日(月), 21日(火), 22日(水)
【会場】関西大学リサーチ・アトリエ ※全3回授業(お茶御菓子付)/持ち物不要

【参加対象】中学生以上の和歌初心者の方などなだても大歓迎!
また、3回すべての授業にご出席可能な方

「二〇一七オアシナル」
和歌手帳をプレゼント!

※全3回ご参加いただいた方に

《お申込方法》
下記きりとり紙下の申込用紙を当アトリエまでご提出ください。
※申込用紙のご提出が完了した後、正式な「申込完了」となります。
お電話でのお申込みはご遠慮願います。
※定員に達次第、締め切らせていただきます
《お申込〆切》2017年2月6日(月)17:00
《緊急連絡先》TEL:06-6940-4340
休園不良等やむを得ない事情でご欠席される場合は事前にご連絡
ください。
それ以外の授業に関するお問い合わせは、ご遠慮願います。

【アクセス】
大阪市北区天神橋3丁目9番9号
(天神橋3丁目商店街)

講師プロフィール 坂本 美樹(さかもと みき)
関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程に在籍中、関西大学第一高等学校にて国語科の非常勤講師を務め、現在は関西大学社会的情報システムセンター(STEP)にてリサーチアシスタントを務める。専門は平安朝時代の和歌、特に百人一首に代表される発句集に纏われた歌人を研究している。

主催:関西大学 STEP プロジェクト 協力:関西大学なにわ大阪研究センター

和歌教室チラシ

現代にも通じるような裏話を盛り込み、受講する方々が少しでも和歌に親しみを持ってもらえるような内容を心掛けた。

和歌への興味について、和歌教室終了後に参加者の方々へインタビューしたところ、歴史上の人物が詠んだ歌や恋の歌に関しては興味があったものの、それ以外に関しては「あまり興味はなかった」という回答であった。さらに、「学校の授業で和歌を勉強しましたか？」と尋ねたところ、夏休みの宿題での暗記や和歌の修辞法を学んだ記憶はあるが、和歌の詠まれた背景まで学んだという回答はなかった。また、修辞法の中でも、「掛詞」は知っていたけれども「折句」や「物名歌」は知らなかったという回答が多かった。しかし、



授業風景

¹関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程。

²関大大学リサーチアトリエは2018年3月で閉鎖された。

「今回の和歌教室を受けて、どのような点に興味を持ちましたか？」という質問に対して、「現代にも通じることば遊びをしていた点」や「このような難しい技法を当時の日本人はみな分かっていたのかに興味を持った」といった回答が得られた。さらに和歌が詠まれた背景について、「現代と変わらないことが昔にもあったこと」に興味を持ったという回答もあった。よって、今回の和歌教室を受けて、和歌をこれまでより身近な存在として感じとってもらえたことが分かる。

学校教育において和歌を教える際、和歌の修辞法と一首の解釈が中心となることが多く、ことば遊びとしての面白さや、和歌の詠まれた背景まで踏み込むことは少ない。今回は学校という場を離れ地域の中で開催したことにより、学校教育とは別の視点から和歌を詠んでいくことが可能になった。また、参加者の意見の中には「天満周辺に関連した和歌があれば教えて欲しい」といった意見があった。和歌には地名やその土地特有の物を詠み込むことが多いため、その地域に関連した物を詠み込んだ和歌を題材にすれば、さらに和歌を身近に感じられるかもしれない。和歌は時代や言葉の違いもあり、どうしても近寄りがたく難しいイメージがあるが、地域の視点から見ることで、そのようなイメージを払拭できる可能性がある。今回の和歌教室は、そのような新たな和歌教育の可能性が考えられる時間であった。

掛詞いろいろ 1-1

これやこの 行くも帰るも 別れては
知るも知らぬも あふさかの関
(蝉丸 『百人一首』10番)

歌意：これがあの、京から出て行く人も帰る人も、
知り合いも知らない他人も、皆ここで別れ、そして
ここで出会うと言う有名な逢坂の関なのだなあ。

あふさか
逢坂 「逢ふ」坂

スライドの例